

SSKU 自立生活センター CILふちゅう機関紙

SunSun ニュース

2月号
2012

vol. 21



02 PHOTOグラビア ~FIPFAワールドカップ~

04 代表コラム 障害者総合福祉法の行方

08 立川防災館ツアーと要望書提出について

08 スタッフコラム ~今、時を刻む~

10 東日本大震災後の活動について

13 COTTONさくらんぼの紹介

14 CILふちゅう忘年会 2011



だい かいふいぶふあ しゅつじょう
第2回FIPFAワールドカップに出 場して
 きたざわ ようへい
北沢 洋平

がつ か か かいさい だい かいふいぶふあ にほんだいひょうせんしゅ
 11月2日から6日までフランス・パリで開催された第2回FIPFAワールドカップに日本代表選手として
 しゅつじょう でんどうくるまいす にほんだいひょう けっか はいたい しょう ばい わけ じゅんけつしょう
 出場しました。電動車椅子サッカー日本代表の結果は、グループリーグ敗退(2勝1敗1分)で準決勝
 こま すす だい い さいしゅうじゅんい い い い
 に駒を進めることができず第5位でした。そして最終順位は、1位アメリカ、2位イングランド、3位フラン
 い い にほん い い い い い い
 ス、4位ベルギー、5位日本、6位カナダ、7位オーストラリア、8位ポルトガル、9位アイルランド、10位ス
 たいかいはんぞくゆうしょう たいかい まく と
 イスで、アメリカの2大会連続優勝で大会の幕を閉じました。

ぜんかい にほん かいさい だい かい だい い したまわ けっか おうえん
 前回の日本で開催された第1回ワールドカップの第4位を下回る結果となっしまい、応援していた
 みな しえん みな もう わけ き も
 だいた皆さんや支援していただいた皆さんに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

さいこう めく かたがた おうえん なか
 ですが、最高なメンバーやスタッフに恵まれて、たくさんの方々に応援していただいて、その中で
 こうえい うれ おも
 レーできたということはプレーヤーとしてとても光栄で嬉しく思います。

こんたいかい つう にほんだいひょう のうりよく かっくく ひ と おも
 今大会を通じて、日本代表の能力は各国に引けを取らないレベルにあったと思います。それでも

結果につながらなかったのは、各国よりも力を出し切れなかった僅かな差だと思っています。やはりその僅かな差をワールドカップ本番で出すことの難しさや、アウェーの厳しさを痛感しました。私は、4年後の第3回ワールドカップにまた選手として出場するために今回感じたことを活かしてさらにレベルアップに努め、日々精進して頑張っていきたいと思います。世界一という夢を夢で終わらさないためにもこれからも走り続けます。

このワールドカップで日本代表として頑張れたのは、両親の支え、監督、コーチ、サポートスタッフの方々、日本代表メンバー、日本電動車椅子サッカーのすべての関係者の方々そして日本代表を支援、応援していただいた皆様があつてのことです。この場を借りて感謝の気持ちを述べたいと思います。

「本当にありがとうございました。」

電動車椅子サッカーという競技はまだまだ知名度が低い障害者スポーツなので、どんどんいろいろな方々に電動車椅子サッカーを認知していただけるように頑張っていきたいと思います。

電動車椅子サッカー関連サイト紹介

【北沢(ヨーヘイ)・吉沢(ヨッシー)の電動車いすサッカー日記】

<http://ameblo.jp/double-y-of-pf-players/>

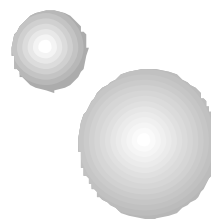
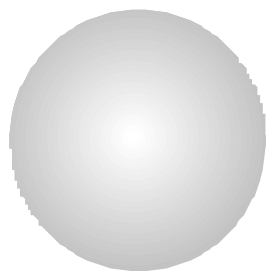
【日本電動車椅子サッカー協会公認ツイッター】

http://twitter.com/#!/JPFA_P_football

【Youtube電動車椅子サッカー応援チャンネル】

<http://www.youtube.com/user/JPFA2011>





しょうがいしゃそうごうふくしほう ゆくえ 障害者総合福祉法の行方

だいひょう すずき かずなり
代表 鈴木 一成

さくねん ねん がつ にち しょうがいしゃそうごうふくしほうこっかく かん そうごうふくしぶかい ていげん
昨年（2011年8月30日）「障害者総合福祉法骨格に関する総合福祉部会の提言」がまとめ
られしました。これは2010年4月より、55名の委員（うち3分の2以上が障害当事者および、そ
のかぞく しえんしゃ こうせい しょう しゃせいどかいかくすいしんかいぎそうごうふくしぶかい かさ
の家族、支援者）で構成された、障がい者制度改革推進会議総合福祉部会において、重ね
られた議論をまとめたものです。2013年の制定をめざす「障害者総合福祉法」に反映させ
るべき意見が、取りまとめられています。121ページにわたるボリュームで、読むのはなか
なかたいへん ですが、わたしたちの生活に直接、影響してくる可能性が高い提言ですので、ぜひ目
を通してみてください。（厚生労働省のホームページにアップされています）

わたしじん ちいきしゃかい なか じりつせいかつ しょうがいとうじしゃ ひとり きょうかん
私自身、地域社会の中で自立生活をしている障害当事者の一人として、とても共感でき
る内容でした。誌面の都合がありますので、ひとつだけ例をあげてみますと、
「重度訪問介護の利用に関して一律にその利用範囲を制限する仕組みをなくす。また、
けつてい しきゅうりょう はんないない つうきん つうがく にゅういん にち はんい こ がいしゅつ
決定された支給量の範囲内であれば、通勤、通学、入院、1日の範囲を超える外出、
うんてんかいじょ りょう ていげん そんじ かた おお
運転介助にも利用できるようにする」という提言があります。ご存知の方も多いと思いま
すが、現行法では「重度訪問介護」の利用には、様々な制約があります。まず対象者は
ぜんしんせいしょうがいしゃ かぎ ちてき せいしんしょうがいしゃ りょう ちてき
全身性障害者に限られているため、知的、精神障害者は利用できません。（しかし知的、
せいしんしょうがい かた みまも しえん ひつよう つぎ つうがく がっこうない つうきん きんむちゅう りょう
精神障害の方にも「見守り」支援は必要です）次に通学、学校内、通勤、勤務中にも利用
できません。理由はそれぞれ、「文部科学省、職業安定局の管轄なので、そちらの施策で
たいおう かんが にゅういんちゅう りょう いせいきょく かんかつ
対応すべき」と考えているようです。入院中に利用できないもの、「それは医政局の管轄
だから」という訳です。（こうした理由は、省庁、部局間で協議、調整すれば解決できる
おも
と思うのですが...）

いち はんい こ がいしゅつ りょう いた うんてんかいじょ
1日の範囲を超える外出が、できない理由に至っては、まったくわかりません。運転介助は、

「ヘルパーが車を運転しては、介助ができないから」というのが理由なようです。これも常時、側に付いていなければならないような重度障害者の場合には、当てはまるでしょう。しかし多くの方の場合は、「見守りと必要な際の介助」で対応できる（したがってヘルパーが運転をしても、適切な介助はできる）というのが生活実態であることを、認識していない見解です。これらは私が長い間、疑問に思っていたことで、それを改善してくれるものになっています。私と同じ思いを感じておられた方も、少なくないのではないのでしょうか...？こうした内容が、たくさん盛り込まれています。

ただし、この提言が、そのまま法案に反映される訳ではありません。法案作成は、あくまで厚労省職員の仕事です。どこまで反映させるかは、彼らに委ねられています。厚労省はこれまで「総合福祉部会」の報告書に対して、消極的なコメントを繰り返してきました。また具体的な法案作成に入った後、中間で同部会に経過報告をするよう求めていたのですが、いまだにありません。

こうした状況を考えますと、私達障害当事者の思いが反映された法案作成が、進んでいるようには思えません。3月には閣議決定（内閣の職権行使に際して、その意思を決定するために開く国務大臣の会議における合意事項。行政の最高意思決定手法）を目論んでいるようです。今こそ様々な働きかけを通して世論を喚起し、私達の思いを反映させた法案作成をさせなければなりません。



たちかわぼうさいかん
立川防災館ツアーと
ぼうさいかん ようぼうしょていしゅつ ほうこく
防災館への要望書提出についての報告

おかもと ちはる
岡本 千春
さ さ き つばさ
佐々木 翼

3月11日の東日本大震災の後、利用者の方やケアスタッフの方から、大変だったことや困ったことなどをアンケート等でいただきました。そこで、より防災に意識をもってもらおうと防災館ツアーを企画し、7月16日、総勢20名ほどで立川防災館への見学&体験ツアーを行いました。立川防災館では5つの体験が実際にできるのですが、今回は「揺れ」「煙」「消火器」の体験をすることにしました。

揺れ体験ではショールームのようなダイニングキッチンが作られていて、実際に震度7までの揺れが体験できます。残念ながら3段ほどの段差があり、車椅子利用者にとって段差を上がるのは大変なのですが、実体験は大事なことだと思い、CILふちゅうのスタッフが協力して車椅子を持ち上げることで全員が体験することができました。私はブレーキ無しの手動状態で震度7を体験。家に帰って車椅子を降りたとたん、「自分揺れ」が止まらず地震酔いを経験しました。次の煙体験は、食品で加工した無害な煙が充満した迷路のような部屋から、無事脱出することができるかというものです。煙が充満していると1m先も見えず、どっちに行ってもよいのか判断できなくて、出口より離れた方向に行ってしまうことがあるということや、出口を探すためには、壁に沿って行けば必ず非常出口につながるということ学びました。

そして最後は消火器体験。消火器には2種類あり、途中で止められるものと、一度レバーを引くと最後まで一気に噴射するものがあることを知り、実際に消火器を使うことで、消火器の仕組みや使い方をしっかり学ぶことができました。

その後、参加者で歓談できる時間を設け、CILふちゅうの職員の被災地ボランティア体験などの話を聞きながら、自分と自分の周りの人たちを守るために、ということが大事かということをお話し合いました。この企画は今後も続けていきたいと思えます。（文：岡本）

立川防災館ツアー



9月26日、東京都立川市にある立川防災館に対して3点の要望を行ないました。
2度にわたる防災館への見学・体験を通して、主に車椅子ユーザーの視点で感じたことを要望
しました。要望した内容は以下の通りです。

1. 防災ミニシアターの車椅子スペースを十分に確保すること
2. 地震体験室にどのような障害があっても起震体験ができるように、車椅子でもスムーズに起震台への移動ができるよう必要な設備を整えること
3. 施設内のエレベーターを車椅子2台分は、余裕をもって乗れる広さにすること

防災ミニシアターについて

車椅子を止められるスペース（通路）が狭く、当初イベント参加人数と考えていた車椅子ユーザー8名。全員が一緒に映像を見ることができない。その上、車椅子の方の専用スペースがあるにもかかわらず、そのスペースが狭いと感じられたこと。また「今の形に改修する前はもっと通路やスペースが広がった」という趣旨の説明が職員からあり、要望に至りました。

エレベーターについて

下見（5月）の時点では、震災後の節電の影響があり、施設内2台あるうちの1台のみ動いている状態でした。それから交渉をして、7月の体験の際には2台を動かしてもらいました。しかし、1台の広さが車椅子2台がやっとという大きさと、スムーズな移動のために要望をしました。

10月7日には防災館から回答書もいただきました。「防災ミニシアターとエレベーターについては現時点では困難ではありますが、地震体験室の起震台については車椅子等での乗降が容易にできるよう、今年度中に整備を検討しております」と返答をいただきました。

立川防災館の返答を受けての今後の対応は、D P I 権利擁護センターの方や鈴木代表からアドバイスをいただきながら、進めていきたいと考えています。（文：佐々木）

スタッフのつれづれ…

いま とき きざ
今、時を刻む
 じりつ みち
 ~ 自立への道 ~

いいの ゆきえ
飯野 幸江

自立をしたいと考えだしたのが30歳くらい。祖父や祖母が亡くなって、母や父も死んでしまったら頼れるのは自分しかない。叔母がいるが身体が弱く喘息もあるので2人共倒れになるのが目に見えて分かる。おまけに気が強く口論も絶えないと思うので一緒に住みたくない。

小さい頃からドリフターズが好きで、「8時だよ全員集合」を見ていたので、漠然と「なんで志村けんが住んでいた東村山市に引っ越さないのかな」と思っていた。電車も通っているし、スロープもあり住みやすそうだなというイメージがあった。

武蔵村山市は古い考えをする所で、地元の人たちには甘く他市から越して来た人には冷たい。電車も走ってない。障害者には冷たいので地元では絶対に自立をしたくないと思っていた。

地元近くのCIL（東大和やくにたち援助為センター）に関わる中で「そろそろ自立したい」という想いが強くなった。しかし、私には喘息や他の持病もあるので不安だった。もっと重度の障害者が地域で自立していることを知って、私が自立を決意したのは32歳の時だった。35歳までには自立をすると目標に決めた。33歳の時、自立するためにヘルパーと外出を始め、体験室で泊まりも経験した。そして両親が都営住宅に引っ越したと同時にヘルパーを家に入れて自立のための練習を始めた。母親は日中仕事（母もヘルパーの資格を取得して働いている）。あつという間に34歳。母親の狭心症のこともあり、そろそろヤバイかなあと思い本格的に家探しを始めた。いくつかのCILに相談したら「地元で自立しなさいよ」みたいなことを言われた。だけど地元（武蔵村山）は、健常者は何も言われないのに、障害者が引っ越すと面倒くさい。地元にごだわる必要もないと感じていたし、地元には居たくないの、いろいろ調べて立川市に絞った。当時、市役所に行くのと障害福祉課の人から立川市に障害者ばかり来られるのは困るというふうなことを言われ、ムカついて立川で自立した。いま思えばそれがあったから強くなれたと思っている。その人に感謝している。親にも内緒でアパートを借りて、引っ越しをし、自立生活をスタートさせた。

ゆめ み じりつせいかつ わたし じりつ かんげき
 夢に見た自立生活！！「やったあ！！ついに私も自立したんだ」って感激したのもつかの
 ま あ なに こま にちじょうせいかつしえんきゅうふ じ かんすう た
 間、ふたを開けたらドン。何が困ったかというと、日常生活支援給付の時間数が足りない
 こと。その頃、私^{ころ}がもらっていたのは、366時間と移動^{じかん}が28時間^{いどう}だった。合わせても、1日^{じかん}
 に12～3時間！これだと、昼間ヘルパーさん^{ひるま}に入ってもらったら、夜は結局^{はい}、母^{よる}を呼ぶこ
 とになって……なんだあ、自立^{じりつ}になってないじゃん！って思い始めた。

ひるま じぶんひとり で とま かいじょ ふ ふる ゆうじん ふくし
 昼間はできるだけ自分一人^{じぶんひとり}で出かけるようにして泊り^{とま}介助^{かいじょ}を増やし^ふつつ、古い友人^{ふる}や福祉^{ゆうじん}
 に興味^{きょうみ}のあるボランティア^つを募り、市役所^{しやくしょ}の福祉課^{ふくしか}にも「もっと時間数^{じかんすう}をください」と訴^{うった}
 えつつ、いろいろ手探り^{てさぐ}しながら移動^{いどう}介護^{かいご}も日常^{にちじょう}支援^{しえん}に組み^く込んだし、市の^こデイケア^しB型セ
 ンター^{がた}に通う^{がた}のもやめてその分^{ぶん}も日常生活^{にちじょうせい}支援^{しえん}に入れたけれど、それでもやっぱり^{つき}月に468
 時間^{じかん}しかない。（1日15時間^{いち じかん}ほど）。だから、それを補^{おぎな}うために生活^{せいかつ}保護^{ほご}他人^{たにん}介護^{かいご}制度^{せいど}を
 つか つか し いぎもう た やくしょ かあ
 使^{つか}ったり、市^しに異議^{いぎ}申し立^{もう}てもした。でもダメ。役所^{やくしょ}はとにかくお母^{かあ}さんがくるんだから、
 よ
 良い^よじゃんみたいな^{かん}感じ。ケンカ^{けんか}しちゃった(笑)

いま ねんまえ がつ ちちおや ぜんそく ほっさ にゅういん わたし ひ こ かいめ おば ひ
 今^{いま}から5年前^{ねんまえ}の2月^{がつ}に、父親^{ちちおや}が喘息^{ぜんそく}の発作^{ほっさ}で入院^{にゅういん}して私の^{わたし}引越^ひし（2回目^こ）が叔母^{かいめ}の引越^{おば}
 越^ひしと重なり^ひ、叔母^{おば}が帯状^{たいじょう}疱疹^{ほうしん}になったので、母^{はは}は叔母^{おば}の引越^ひしの手伝^{てつだ}いと父^{ちち}の病院^{びょういん}に
 まいにちい しごと まいにち わたし ひ こ てつだ
 毎日^{まいにちい}行くこととヘルパー^{しごと}の仕事^{まいにち}が毎日^{わたし}で私の^ひ引越^こしを手伝^{てつだ}ってもらえなかった。ヘルパー
 てつだ ひ こ ころ じぶん ひろば かが
 に手伝^{てつだ}てもらい引越^ひした。その頃^{ころ}は自分^{じぶん}も「みんなの広場^{ひろば}」という^{かが}デイサービス^かに関
 わっていた。だから、夜勤^{やきん}のヘルパー^おも多かったし、生活^{せいかつ}保護^{ほご}他人^{たにん}介護^{かいご}で入^{はい}ってくれてい
 たのでよかったが、だんだん^{かいじょしゃ}介助^き者^{しや}も消えてうま^きくいかなくなったので、自薦^{じせん}ヘルパー^{せん}に
 き か じぶんさが いろ こと つづ じぶん う
 切り替^きえた。自分^{じぶん}探^{さが}しのために色^{いろ}んな事^{こと}をや^{つづ}り続^{つづ}けた。でも、いま^{いま}いち自分^{じぶん}が浮^ういてると
 かん おお なや くる い つ
 感じる^{かん}ことが多く^{おお}悩み^{なや}苦し^{くる}みがあ^いった。行き着^いいたのが「CILふちゅう」^つだった。きっかけ
 ねんまえ しょうがいしゃじりつしえんほう はんたい うんどう なか だいひょうすずき
 は6年前^{ねんまえ}。「障害^{しょうがい}者^{しゃ}自立^{じりつ}支援^{しえん}法^{ほう}」反^{はん}対^{たい}の運^{うん}動^{どう}の中^{なか}で、ふちゅう^{だいひょう}の代^{だい}表^{ひょう}鈴^{すず}木^きさん^きのスピーチ^{すずき}に
 かんどう あこが いた じぶん かつどう おも つた
 感動^{かんどう}して憧^{あこが}れを抱^{いた}くよ^{じぶん}うになった。自分^{じぶん}から「活動^{かつどう}をいっしょにや^{おも}りたい」と想^{つた}いを伝^{つた}え
 つづ ねんご かつどう
 続^{つづ}けて2年^{ねんご}後^ご、ふちゅう^{かつどう}で活^{かつどう}動^{どう}するよ^{おも}うになった。

いま せいかつ いそが たちかわ ふちゅう おうぶく い いぎ さいじゅうど じぶん
 今^{いま}の生活^{せいかつ}は忙^{いそ}しい。立^{たち}川^{かわ}と府^ふ中^{ちゅう}の往^{おう}復^{ぶく}をしてい^いる。でも生^いきる意^い義^ぎや最^{さい}重^{じゅう}度^どの自分^{じぶん}だけ
 じりつ じぶん ていど く
 ど自立^{じりつ}して、自分^{じぶん}で^{ていど}ある程^く度^どシフト^しを組^くめるよ^いうにな^いったりしてきて
 おも じかんすう はな あ し
 いるからいいのか^{おも}とも思^しう。時間^{じかん}数^{すう}の話^{はな}し合^あいを市^しとしてい^いるが、も
 すこ がんば はは よ こと ほんとう じりつ
 う少^{すこ}しもらえるよ^{がんば}うに頑^{はは}張^よって、母^{はは}を呼^よばない事^{こと}が本^{ほん}当^{とう}に自^じ立^{りつ}になる
 かんが
 と考^{かんが}えている。



ひがしにほんだいいしんさいご かつどう 東日本大震災後の活動について

ふちゅうほうえんごしえいさくこんだんかい ほうこくとう (府中市要援護者対策懇談会の報告等)

おかもと ちはる
岡本 千春

3月11日、東日本大震災が起き、障害のある人達には様々な問題が起きました。障害の程度、住んでいる地域や環境によって起きた問題の大きさは様々違っていたと思います。私は府中市で24時間の介助を受け、人工呼吸器を使い(夜間+日中数時間)、普段外出時はかろうじて3時間持続する外部バッテリーを使いながら過ごしていたのですが、そんな私にも少なからず問題は起きました。

地震当日は、たまたま自宅にいたため大きなトラブルは起きませんでした。問題は輪番停電が始まった週明けの13日から始まりました。停電ということは、電気で動いているものが使えない、つまり、電動ベッド、玄関昇降機、そして人工呼吸器も使えなくなるということです。私は呼吸器がないと即生命に関わることはありませんが、睡眠時は必ず必要で、日中の半分くらい使用しています。疲れた時に使えないと、身体にかかる負担は大きくなり、それが何日か続けば、確実に体力が奪われていって調子を崩してしまいます。

それだけは、なんとか阻止しなければ・・・という思いで、まずは呼吸器を動かす外部バッテリー

の確保をしようと、呼吸器の業者に電話をしました。すると「こちらもなんともできない状況なので、そちらで頑張ってください」というエールをいただいただけでした。

次に東電が発電機を貸し出すという情報もあったけど、もちろんもっと重度な障害者が優先な話。(それ以前に電話すら通じなかったけど。)

さらに、かかりつけ専門病院からは、定期検診だったにもかかわらず、「来なくてもらえますか・・・」という想定外の返答。(24時間人工呼吸器が必要な在宅障害者が優先で、それ以外の人まで手が回らないといった様子。) ここまでくると3時間の輪番停電を3時間持たない外部バッテリーで乗り切るしかない! 停電の時間に合わせて、停電準備態勢をととのひつようきゅうむを整える必要が急務になりました。その際、停電が何時から始まるのかが重要なのに、停電時間を表すグループ分けがあいまいで停電時間がわからない。いつ停電になるかわからず、毎日ヒヤヒヤしました。結局停電は4月中旬まで続くと言われ、その間、完全に停電に合わせた生活となっていました...

そんな状況の中、府中市や各関係機関
に要望を出していく活動をはじめ、8月
は「府中市の災害時要支援者対策のための
懇談会」というのがあり、CILふちゅうと
して代表と一緒に参加しました。

この懇談会は、府中市の作業所連絡会の
方が中心になり、府中市内の関係機関
(障害者福祉課、消防署、警察など)と、市
の障害当事者団体や親の会、患者会とが、
災害に対する意見交換ができるようにと、
初の試みで行われたものです。以下、C
ILふちゅうとして出した質問、要望、そし
て市側からの回答を掲載してみたいと思
います。

【府中市障害者福祉課】

- 親と2人暮らしをしていて主な介助は親。
もし親に緊急な事があった場合、ヘル
パー派遣時間(支給量)は早急に増や
してもらえるのか。また緊急入院時のヘ
ルパー派遣を認めてもらいたい。
- 福祉避難所はあるのか、また受け入れ
体制の確保と本人への周知徹底をしてほ

しい。

- 人工呼吸器、吸引器等、医療機器を使用
している在宅障害者に対する電源の
確保、及び計画停電時の詳細情報の
早期提供。(グループ分けですら曖昧で
何時に停電が起きるかわからない状
況での生活は厳しかった)

回答

- まずはすぐに相談をいただきたい。
個別状況に応じて対応する。入院に関
しては個別の状況と主治医の意見を
判断とする。
- 府中市に福祉避難所はないが、避難所の
モデルケースをつくって避難支援プラン
みたいなものは今年度中に準備する予定。
しかし電源の問題、必要物品の問題、
移送の問題等々 課題はたくさんあるの
で、当事者の方からの意見をいただきな
がら検討していきたい。
- 市でも地域分けは把握しきれていない。
東電からの情報をもとにインターネッ
ト等で情報提供を行っている。(その後、

きんいしゆくしょうかんじゃがい かた じょうほうていきょう
 筋萎縮症患者会の方からの情報提供で、
 ざいたくじんこうこきゅうき しょうしゃ なんびょうかんじゃ たい
 在宅人工呼吸器 使用者や難病患者に対
 して、とうでん ていでんじかん まえ し
 東電が停電時間を前もって知らせ
 てくれる制度があることがわかりました。
 ほけんじょ とお しんせい
 (保健所を通して申請ができる))

しょうぼう
 【消防】

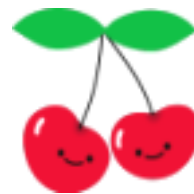
- きゅうきゅうたいいん きゅうきゅうたいおう しゅうち
 1. 救急隊員への救急対応キットの周知。
 きゅうきゅうたいいん き とき ほんにんかくにん かぞく
 (救急隊員が来た時、本人確認や家族の
 れんらくさき じょうびやく きほんじょうほう くあい
 連絡先、常備薬などの基本情報を具合が
 わる なkや つばや きつた
 悪い中矢継ぎ早に聞かれ、伝えるのが
 たいへんこんなん きゅうきゅうたいおう
 大変困難だったので救急対応キットを
 かつよう
 活用してもらいたかった)
- きゅうきゅう きゅうめいし きゅうきゅう しゃない じょういんはいび
 2. 救急救命士の救急車内常員配備。
 きゅうきゅう きゅうめいし しじ
 (救急救命士がいればドクターの指示で
 そうかんとう しょち
 挿管等の処置ができる)
 かいとう
 回答
 きゅうきゅう たいいん しゅうちてつてい
 1. 救急隊員に周知徹底していくが、
 きゅうきゅうたいいん とき きゅうきゅう
 救急隊員がきた時に、救急キットが
 ひとことつた
 あることを一言伝えていただけるとあり
 がたい。
 きゅうきゅうきゅうめいし きほんきゅうきゅうしゃ だい
 2. 救急救命士は基本救急車1台に

ひとりはいび きゅうきゅうきゅうめいし
 1人配備している。救急救命士がい
 ない
 ばあい ほうほう きどうかくほ
 場合でも、あらゆる方法で気道確保が
 できる
 たいいん はいび
 する隊員を配備している。

だんたい しんさいじ じょうきょう き
 団体ごとの震災時の状況などを聞き、
 さまざま しょうがい かた いけん
 様々な障害の方の意見をまとめて、
 そうごうてき ぎょうせい ようぼう きかい
 総合的に行行政に要望できる機会はとて
 だいじ おも
 大事だと思いました。

こんかいとうきょうと じんこうこきゅうき しょう
 今回東京都では、人工呼吸器を使用する
 ざいたくりょうようかんじでいでんじとう あんぜんかくほ はか
 在宅療養患者の停電時等の安全確保を図る
 ため、きんきゅうじ たいおう しえんじぎょう
 緊急時対応支援事業として、
 がいぶ きゅういんきどう しきゅう
 外部バッテリーや吸引器等が支給されまし
 た。これによってていでんじ こきゅうき つか
 る時間が大幅に増えたことはとてもよかつ
 たと思います。しかし、だいきぼさいがい
 たとします。しかし、大規模災害におけ
 るじゅうどしょうがいしゃ ひなんじ とうかん
 る重度障害者の避難時のこと等に関しては、
 そうてい かだい
 ほとんど想定されておらず、まだまだ課題
 も多いので、こんご ひつづ ようぼう つづ
 今後も引き続き要望を続けて
 いかなければならないと感じました。

“ COTTON さくらんぼ ” の活動紹介



SUNSUNニュースをご覧の皆さま、こんにちは。東京都府中市に住む岩間由里子と申します。
 昨年さくねんの7月がつから体からだが不自由ふじゆうな方かたの為ためのお洋服ようふくのリフォームかつどうをするサークル活動はじを始めました。
 洋服ようさいが出来できる方かたがなかなか見みつからず、活動かつどうをする迄までにかなり時間じかんがかかりましたが、協力きょうりやくして下さくだる方かたが見みつかり、活動かつどうを始めはじめる事ことが出来できました。

このサークルを立ち上げたきっかけは「着たい服を着たい!!」という洋服への思いでした。私は筋ジストロフィーで両上肢・両下肢が不自由で全介助、車椅子生活をしています。病気になる前は、洋服のサイズ・色・デザイン・素材選びに困る事なんて無かったのですが、病気を発症後、みるみるうちに体型が変わり、手の力は弱まり着替えが困難になり、気が付くと大きいサイズで着替えやすいものを探そうになっていました。本当は、もっと可愛いデザインでキレイな色の服を着たいけど、仕方がないと諦めていました。そんな時、既製品に少し手を加える事で着易くなることに気付き、お直しして頂けるところがあれば...と思ったのがきっかけです。

団体名は“COTTONさくらんぼ”で行っています。COTTONさくらんぼをどのように維持し、活動を広げていくかまだまだ課題がいっぱいですが、和やかな雰囲気で行っています。興味がある方は是非遊びに来て下さい(^o^)



活動場所
 府中グリーンプラザ 1F
 【〒183-0055 東京都府中市府中町1-1-1】
 「府中市NPOボランティア活動センター」
 毎月 第4木曜日 15時～17時
 (場所の都合により変更あり)

お問い合わせ
 COTTON さくらんぼ
 cotton-sakuranbo@docomo.ne.jp



2011 C I Lふちゅう忘年会 ぼうねんかい

12月14日に毎年恒例の忘年会を事務所の近くにあるルミエール府中のホールを借りて開催しました。利用者さん、ヘルパーさん、ご家族、事務所のスタッフ合わせて40名ほどの参加がありました。



今年の司会進行は、いつもさわやかで事務所に笑いをくれている当事者のOさんとスタッフの佐々木が盛り上げてスタート！乾杯の音頭は、当日に1番早く来てくださった利用者さんをお願いしました。



食事・歓談中に、「C I Lふちゅうを振り返るスライド」を流しました。今までなかなかCILの活動を利用者さんと一緒に振り返る機会がなかったという話が企画会議で出ました。そこで、1年間の活動を簡単にスライドにしました。担当者として、取り急ぎつくった感は否めませんでした。「学生時代になんでパワーポイントを使って作業した経験がなかったんだろう。」と作業をヒーヒーしながらやっていた。見ている人たちの会話のネタにちょっとでもなっていたら嬉しいです。それにしても、パソコンを操作しながら、人に向かって話すって難しいと改めて実感しました。

次に、職員に仕切りをバトンタッチして「サイコロトーク」を行いました。某テレビ番組でやっているものを真似してみました。利用者さんに前に出てきてもらい、サイコロを振っていただき自分の名前と出た目のテーマについて一言、言ってもらおうというもので

す。ちなみにサイコロの目は、「来年したいこと」「最近イラったこと」「1番幸せを感じる時は」「自分を動物に例えると」「好きなタイプは」「今年1番楽しい思い出は」の6つでした。



今回の忘年会で1番のイベントは「ビンゴゲーム」！！
 しかも、市販のビンゴカードではなく、当事者スタッフが手作りしたもの。カードに書かれているのは、CILふちゅうのスタッフの名前と先ほど紹介した「サイコロトーク」に参加してくれた利用者さんの名前をどこに書くかと考えながら思い思いにビンゴカードを作ってもらい、抽選に！！



上位5名の方には景品を用意していたのですが、最後はビンゴする人が重なって・・・じゃんけんによる争奪戦になりました！！
 みなさんが顔と名前を知ってもらえるようにと企画しました。ひと役買えたでしょうか。

今後も、利用者さんにもイベントをつくる側にも関わってもらいながら、手作り感のある利用者さんと

私も皆さんと関わられたし、楽しかったです。



ぶん 文： いいの 飯野 ゆきえ 幸江・ ささき 佐々木 つばさ 翼

本格派 讃岐うどん屋



ぶらり町こらむ

ぶん こまち とおる
文：小町 徹
 しょうわ ねんう
 昭和50年生まれのジャイアンツ党、ケア府中介助歴
 ねんはん た ある ししゃめく す
 は5年半になります。食べ歩きや寺社巡りが好きです。
 けいおうせんえんせん おも しょうかい
 京王線沿線のグルメスポットを主に紹介していきたいと
 おも
 思っております。

No.2

府中市美好町3-3-3 京王線分倍河原駅 徒歩5分
 TEL: 042-336-7801

うどんといえば多摩地区でメジャーなのは武蔵野うどん。府中駅前にも2軒のお店がありますが、全国的な知名度でいえばやっぱり讃岐でしょう。そんな讃岐うどんを本格的かつ良心的な価格で提供してくれるお店が、府中のおとなり分倍河原駅から5分ほど歩いた場所にある『喜三郎』。讃岐うどんを食べる基本的なスタイルは一般的な「もり」でも「かけ」でもなく、茹で上がったうどんだけを丼に盛り、その上から風味豊かなおだしやコクのある生醤油をかける「ぶっかけ」。それぞれ「あつ」か「ひや」が選べて、例えば「ひやひや」とオーダーするとうどんもおだしも冷たいものができます。お店のイチオシはその「ひやひや」ですが、なにしろコシが強いのでキュッと締まったうどんを食べるのに一苦労。個人的には「うどん・ひや、おだし・あつ」で、ほどよく温められたうどんのツルツとした喉越しを楽しむのがオススメです。そしてもう一つのウリは桜海老のかき揚げ。駿河湾から毎朝直送される桜海老がカリッと揚がった食感と鼻に抜ける風味がたまらない！単品でも頼めますが、ぶっかけうどんと一緒に食べるとまた格別です。昼はお得なランチセットもあるし、夜はおでんも登場して一杯飲るのに丁度いいですよ。



編集後記

いえ この や つく た たの きょう ごろ いま と き きざ か あら きもち
 家で好み焼きを作った食べることが楽しかったりする今日この頃。「今、時を刻む」を書いて新たに気持ちの整理ができました。感想をお待ちしています。(幸)
 あさがた さむ こた ふとん いや もと おつ みつけ い
 朝方の寒さが堪えて布団でモジモジ……。癒しを求めて落ち着けるカフェを見つけに行こうかな(笑)(翼)
 ふくしま かた ひまわり たね う ふゆ まどべ たいよう ひかり あ
 福島の方にいただいた向日葵の種を植えました。冬にもかかわらず、窓辺で太陽の光を浴び、グングン成長する姿は福島復興力と重なります。3月頃には花が咲くでしょうか、楽しみです。(千)

編集長：岡本 千春 編集員：佐々木 翼 飯野 幸江

編集者：自立生活センター CILふちゅう

〒183-0055 東京都府中市府中町2-20-13 丸善マンション1F

TEL:042-314-2735 FAX:042-314-2736

E-Mail:office2735@cilfuchu.com

URL : http://www.tt.rim.or.jp/~cilfuchu

発行 障害者定期刊行物協会
 定価 一〇〇円